

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(6月30日～7月6日)

2019年7月9日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、渡辺博道復興大臣と会談(6/30)

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領・ラフモン・タジキスタン大統領と非公式会談(6/30)

●89%の国民が、EUに好感あるいは中立的(7/5)

大統領動静

●独立75周年記念式典に出席(7/3)

(7/3 大統領府公式サイト)

●サルキシャン・アルメニア大統領と会談(7/2)

ルカシェンコ大統領は、ベラルーシ・アルメニア間に閉ざされたテーマは一切なく、ベラルーシは常に門戸を開放していると述べた。

(7/2 大統領公式サイト)

●パシニャン・アルメニア首相と電話会談(7/2)

両者は、二国間関係の発展、ユーラシア経済連合における相互協力について協議。今年10月アルメニア首都エレバンにて開催される同連合最高評議会について、そして、同連合とシンガポール・イランとの対外経済関係強化について議論された。

(7/2 大統領府公式サイト)

●第二回欧州競技大会の閉会式に出席(6/30)

(6/30 大統領公式サイト)

●プーチン露大統領、ラフモン・タジキスタン大統領と非公式会談(6/30)

公邸「ザスラーヴリ」にて非公式会談が実施された。

(6/30 大統領府公式サイト)

●渡辺博道復興大臣と会談(6/30)

ルカシェンコ大統領の発言内容は以下の通り。

・投資分野を中心とするベラルーシと日本の関係をさらに高い水準へ上げることに賛同する。

・ベラルーシにおいて日本政府高官訪問が非常に喜ばしいものとされており、ベラルーシと日本が親密で、

暖かく、友好的な関係を築くタイミングが来た。

・我々は日本の成功を嬉しく思っており、日本で何か問題が発生した時には心配している。日本は非常に発展しており、高技術の国である。私は20年前に訪日した時(当館注:長野冬季五輪の際の非公式訪日)からそれを個人的に確信している。

・地理上の距離はあるものの、我々は日本と投資分野をはじめとする強い関係を持つべきであるという決定を行った。仮に日本政府がベラルーシとの強い関係を持つ用意があるならば、我々は即座にそれに応える。欧州に関心がおありならば、その関心を実現するためにベラルーシを活用してかまわない

・日本は、チェルノブイリ事故の後に真っ先に援助の手を差し伸べた国である。それだけでなく、国、チェルノブイリ周辺地域の住民への支援、大災害克服のための共同研究開発を行って頂いた。そして我々の共同開発は福島原発事故後の日本にとって役に立った。

・一言で述べれば、我々は協力に開放的である。日本政府の善意があるのであれば、ぜひ始めよう。

渡辺復興大臣の発言は以下の通り。

・欧州競技大会閉会式に招待頂き深謝。本スポーツフォーラムが国々と人々の団結を助長した。

・文化・スポーツにおける友好関係をさらに深化していく必要がある

・2011年3月の東日本大震災の被害克服に向けた支援に感謝申し上げます。

(6/30 大統領府公式サイト)

内政

●89%の国民が、EUに好感あるいは中立的

EUの「東方隣接」プログラムの枠組みで2019年2月から4月にかけて東方パートナーシップ参加国住民向けにEUに対する印象に関するアンケートが実施された。ベラルーシ国民のアンケート結果は以下の通り。()内は昨年対比増減。

「EUと良い関係にある」:62%(+12%)

「EUを信頼している」:51%(+4%)

「EUに対してネガティブ」:約10%

同アンケートはアルメニア、アゼルバイジャン、ジョージア、モルドバ、ウクライナで実施。全体の約52%がEUへ好感を抱いている。(2016年対比+7%)

(7/5 ベラパン通信)

●ベラルーシ収賄摘発件数大幅増

2019年1月～5月の収賄摘発件数は1188件に上り、昨年同期対比33.2%増加。

(7/4 ベラパン通信)

●独立75周年記念式典イベントにて花火が爆発、1名死亡、10名超重軽傷

式典イベントにおける花火が爆発、爆風によりガラスが割れ、50代の女性が死亡、その他10名を超える重軽傷者が発生。

(7/4 ベラパン通信)

●独立75周年記念式典開催

7月3日、独立記念日を祝うために約80ものイベントが開催された。独立75周年記念式典軍事パレードにおいては軍用機50機、軍人5,000名、軍事機材280台が動員された。

(7/3 ベラパン通信)

外交

●プーチン露大統領、7月18日サンクトペテルブルクにてルカシェンコ大統領と統合問題について議論を行うことを公表。

(7/3 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●経済省、「2019年GDP610億ドルを見込む」

クルトイ経済大臣は、一帯一路の枠組みにおける地域協力発展フォーラムにて、「ベラルーシ大統領は2025年までにGDP1000億ドルを目指している。2019年は610億ドルを見込んでおり、1.7倍拡大する必要がある」と述べた。

(7/2 ベルタ通信)

●Fitch、ロシアの石油税操作によるベラルーシ側損害想定額を試算。

Fitchは仮にロシアから石油税操作に伴うベラルーシに対する損害補填が一切されない場合、直近5年間で106億ドル超の被害に上ると公表。

(7/1 ベラパン通信)

●Fitch、ベラルーシ格付け「B/安定的」と発表。

Fitchは、改善基調にあるマクロ経済の安定性、国民一人あたりの収入等の強い構造、人材ポテンシャルの発展、対外債務返済履歴等のベラルーシ経済の良い面を指摘する一方、外貨準備高の低さ、銀行セクターの弱さ、対外債務の高さを懸念材料として挙げた。

(7/1 ベラパン通信)

【対外経済】

●2019年1～5月ミンスク市貿易高、昨年同時期対比3.9%減。

2019年1～5月ミンスク市の輸出高は45億2千万ドル(昨年対比11.2%減)、輸入高は64億2240万ドル(昨年対比2%増)、貿易高は109億4240万ドル(昨年対比3.9%減)

(7/4 ベラパン通信)

●農業食糧省、「課題は食肉・乳製品の輸出拡大」

同省は、食肉・乳製品国内消費のうち95～98%がベラルーシ産であり、今後、輸出を拡大していく必要があると発表。現在、食肉は国内生産量の32%が19

カ国に輸出されており、乳製品は国内生産量の 57% が 58 カ国に輸出されている。国内農業ビジネスプログラムに従い、2020 年までに輸出量を 3%拡大させる予定と発表した。

(7/5 ベラパン通信)

●ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」で一带一路の枠組みにおける地域協力発展フォーラム開催 (7/2)

約30カ国から約500名が参加見込みとされている。開会にあたり、ルカシェンコ大統領の歓迎の言葉は以下の通り。

・ベラルーシは、習近平中国国家主席による一带一路への参加要請に最も早く反応した国の一つである。

・2014年に関連覚書に署名し、翌2015年には「巨石」建設を開始した。

・今日「巨石」はヨーロッパとアジアの経済利益を連結する模範、そして一带一路の真珠となっている。

・開放特区「巨石」というフォーラムの名前は、グローバルな可能性の例であり、中国で生まれたものであるが、その結果は全世界に帰属するという特区の重要な考えを反映している。

・「巨石」は、各国共同開発の模範例となり得る、環境に優しい新時代の調和のとれた都市である。

(7/2 大統領府)

●クルトイ経済相「ベラルーシとロシア、連合国家創設に向け11月までに約10分野におけるロードマップ作成予定」と公表

同相は、ロシア・ベラルーシ間の作業部会により、産業、農業、輸送、税関、税金、財務等、約10分野において統合深化に向けたロードマップ作成が続いていることを公表。

(了)